愛は続く。
一方的に、執拗に。
永遠に……

Jの悲劇

Enduring Love

「ノッティングヒルの恋人」
ロジャー・ミッチェル
×
ブッカー賞作家
イアン・マキューアン

イギリスの鬼才二人が仕掛ける
甘美なる妄想と愛の罠。

ダニエル・クレイグ「シルヴィア」
サマンサ・モートン「CODE46」
リス・エヴァンス「ノッティングヒルの恋人」

2004年ロンドン批評家協会賞
英国男優賞受賞（ダニエル・クレイグ）

2004年ヴェネツィア国際映画祭
《ヴェネツィア・メッザノッテ》部門正式上映、
トロント映画祭特別上映、ロンドン映画祭などで特別上映

2004年イギリス・インディペンデント映画賞
監督賞、主演男優賞、助演女優賞、撮影賞の4部門でノミネート

2004年イギリス映画／シネマスコープ／カラー／101分
Pathé Pictures presents in association with the UK Film Council and FilmFour
and in association with Inside Track a Free Range Films
原作：イアン・マキューアン「愛の続き」（新潮クレスト・ブックス）
協力：メディア・ファクトリー
後援：ブリティッシュ・カウンシル BRITISH COUNCIL
配給：ワイズポリシー http://www.wisepolicy.com/ WISEPOLICY

穏やかな午後のピクニックが、一瞬にして悲劇へと一変する。
青空に浮かぶ赤い気球、地面に転がり落ちる男たち、
草原に投げ出された死体、そして運命の出逢い……。

Pathé Pictures presents in association with the UK Film Council and FilmFour and in association with Inside Track a Free Range Films
2004年イギリス映画／シネマスコープ／カラー／101分　原作：イアン・マキューアン「愛の続き」（新潮クレスト・ブックス）
宣伝協力：Lem　協力：メディア・ファクトリー　後援：ブリティッシュ・カウンシル BRITISH COUNCIL　配給：ワイズポリシー http://www.wisepolicy.com/ WISEPOLICY

ブッカー賞作家
イアン・マキューアン
×
『ノッティングヒルの恋人』監督
ロジャー・ミッチェル

イギリスを代表する 2人の鬼才が仕掛ける愛の罠

ブッカー賞作家イアン・マキューアンの原作「愛の続き」（新潮クレスト・ブックス刊）はその衝撃的なストーリーが大きな話題を呼んだ世界的なベストセラーである。ハリウッドのメジャースタジオが映画化権を取得し、名だたる名匠が監督に名乗りを上げたものの、マキューアン独自の繊細な世界は映像化が難しく、ついにはスタジオもギブアップしてしまった。そのチャンスを密かに狙っていたのが『ノッティングヒルの恋人』の監督ロジャー・ミッチェル。メジャースタジオではなし得ない緻密な脚本とプロットを原作者とともに練りあげ、見事完全映画化に成功したのである。こうして『Jの悲劇』は"愛"を求めることで平穏な日常が非日常へと加速度をつけて転がり落ちていく快感にも似た恐怖と甘美なる妄想というマキューアンの世界とミッチェルの洗練されたコンテンポラリーな映像感覚が見事に融合した稀に見る極上のサスペンス映画となったのである。

偶然出会ったジョー（JOE）とジェッド（JED）、二人のJ……。すべてはここから始まった……。

作家で大学教授のジョーは、長年の恋人で彫刻家のクレアと郊外の草原でピクニックを愉しんでいた。彼女に永遠の愛を誓うプロポーズをするために……。そんな至福の最中、操縦不能となった気球が風にあおられて二人のいる草原に現れる。青く澄みわたった空とまばゆい新緑のこの上なく美しいコントラストにまるで不吉の予兆のような影を落とす血のように真っ赤な気球。ジョーをはじめその場に居合わせた男たちが救助を試みるが図らずもそのうちの一人が墜落死してしまう。思いがけない悲劇に茫然とするジョーは、そのときジェッドという男と出逢った。数日後、ジョーはジェッドからの電話を受ける。これがすべての始まりとも知らずに……。果たしてあなたが目にするのは"永続する愛"の終焉なのか？ "崩壊する愛"の始まりなのか？

赤い気球、赤いロンドンバス、赤いリンゴ、赤ワイン……。赤が暗示する洗練された映像、巧妙に仕掛けられた罠、恐怖と戦慄の絶妙なる味わい。これはまさにヒッチコックだ！

偶然出会った「見知らぬ他人」の登場により日常が非日常へと一変する――。「見知らぬ乗客」「知りすぎていた男」「めまい」などサスペンスの巨匠アルフレッド・ヒッチコックが最も好んだプロット。また不吉の前兆のように全編にたびたび使われる『赤』は観ている者を知らず知らずのうちに不安な感覚に誘い込む。これもまた「マーニー」「白い恐怖」といった視覚的に恐怖をあおるヒッチコックの常套手段である。監督のロジャー・ミッチェルはこれらの手法を意識的に取り入れ原作の世界を壊す事なくセンシティヴにスタイリッシュにスクリーンに映し出す。赤い気球が風にあおられ、緑の草原から青い空へと吸い寄せられるように浮かびあがる圧巻のオープニングから我々は非日常の世界の住人となるのである――。

出演は、大学教授のジョーに、ロジャー・ミッチェルの前作"The Mother"に主演し、『シルヴィア』での好演も記憶に新しいダニエル・クレイグ。ジョーの長年のパートナーで彫刻家のクレアには、『ギター弾きの恋』でアカデミー賞候補となった演技派サマンサ・モートン。そして、偶然出会う男ジェッドに、『ノッティングヒルの恋人』でスターダムとなった個性派リス・エヴァンスというイギリス映画界を代表する魅力的な本格俳優が正面からぶつかりあい、謎が謎を呼ぶ緊迫感あふれる愛のドラマをスリリングに構築、観る者の視線を捉えて離さない。そして、ジョーの親友ロビンに『ラブ・アクチュアリー』のビル・ナイ、彼の妻レイチェルに『ノーラ・ジョイス／或る小説家の妻』のスーザン・リンチが脇を固める。またロンドンの人気スポットである現代美術館「テートモダン」をはじめロンドン最先端のスタイリッシュなディティールも大きな見所となっている。

『Jの悲劇』は、04年のヴェネツィア国際映画祭《ヴェネツィア・メッザノッテ》部門で正式上映された後、トロント映画祭、ロンドン映画祭などで特別上映され、その現代社会をヴィヴィッドに反映させた愛のドラマが大きな反響を巻き起こした。さらに、04年のイギリス・インディペンデント映画賞では、監督賞、主演男優賞（クレイグ）、助演女優賞（モートン）、撮影賞と4部門でノミネートされたほか、ロンドン批評家協会賞でダニエル・クレイグが英国男優賞に輝くなど、高い評価を獲得している。

"愛"という魔物に翻弄される登場人物たちが、やがて辿る驚愕のエンディング。あなたは目をそらさずにいられるだろうか？

2005年秋 愛と戦慄のロードショー

特別鑑賞券 ¥1,500（税込・当日一般¥1,800のところ）

＊劇場窓口でお買い求めの方に、特製携帯クリーナーをプレゼント！（限定数）

日比谷・東宝映画街　全席指定制（初回を除く）
シャンテ シネ　03 3591 1511
www.chantercine.com